

横浜市指定有形文化財

旧小岩井家



Koiwai-ke



主屋
江戸時代末期、弘化四年（一八四七）創建。
奇棟茅葺屋根、木造平屋建、部厨子二階建。



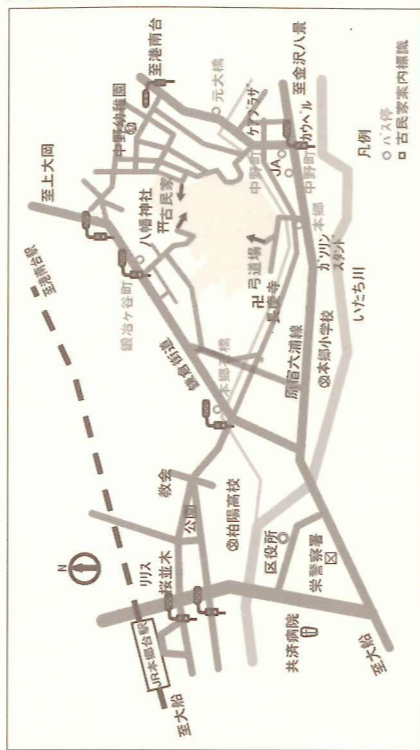
土間から天井裏を仰ぎ見たところ。屋根裏に続く重層的な建物構造をここから見る事ができます。1階左手が畳敷きの広間、右手が板張りの囲炉裏付き茶の間です。大きく曲った梁（箆子梁=しんしばり）の向う側、囲炉裏の上に煙出しがあります。茅葺き屋根を外から見ると煙突のように見える、それが煙出しです。（主屋の写真参照）



【本郷ふじやま公園古民家ゾーン ご利用案内】

開館時間 ●午前9時～午後5時
休館日 ●毎月第1水曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）

入館料 ●無料



交通案内 ●JR大船駅より、上大岡方面行バス「鍛冶ヶ谷」下車徒歩5分
●JR大船駅より、金沢八景方面行バス「中野町」下車徒歩9分
●JR港南台駅より、中野町方面行バス「中野町」下車徒歩9分
●JR根岸線本郷台駅より、徒歩30分

※お車でお出かけの際は、弓道場の駐車場をご利用ください。（有料）

お問合せ先 ●本郷ふじやま公園運営委員会
〒247-0009 横浜市栄区鍛冶ヶ谷1-20
Tel 045-896-0590 + Fax 045-896-0593
URL http://www.k5.dion.ne.jp/h_fuji_p

平成15年2月発行
デザイン ●高橋デザイン室 + 写真 ●古屋 均
横浜市広報印刷物登録 第140513号 類別・分類 C-1A131



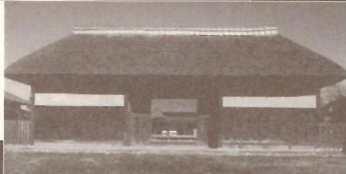
R270

古紙配合率70%再生紙を使用しています

一般農家とは異なる

名主の屋敷

旧小岩井家住宅主屋及び長屋門は、鍛冶ヶ谷村の名主を務めた「小岩井家」から奇贈をうけ、移築復原された建物です。江戸時代末期に建てられたこの建物は、主屋に式台をつけた座敷が設けられるなど一般の農家に見られない格式ある造りを持ち、長屋門とあわせて、創建当時の姿に復原されています。平成十四年十一月には、主屋、長屋門（表門）ともに市指定有形文化財に指定されました。古民家ゾーン内には、復原された主屋、長屋門の他、各種体験教室などが開かれる工作棟等があります。江戸時代の名主の屋敷の雰囲気は今に残す主屋内は、見学いただけます。



長屋門

江戸時代末期創建（推定）奇棟茅葺屋根、木造平屋建。中央通路を挟み、東側が板敷きの殺物入れ、西側が土間の納屋になっています。

一般農家とは異なる

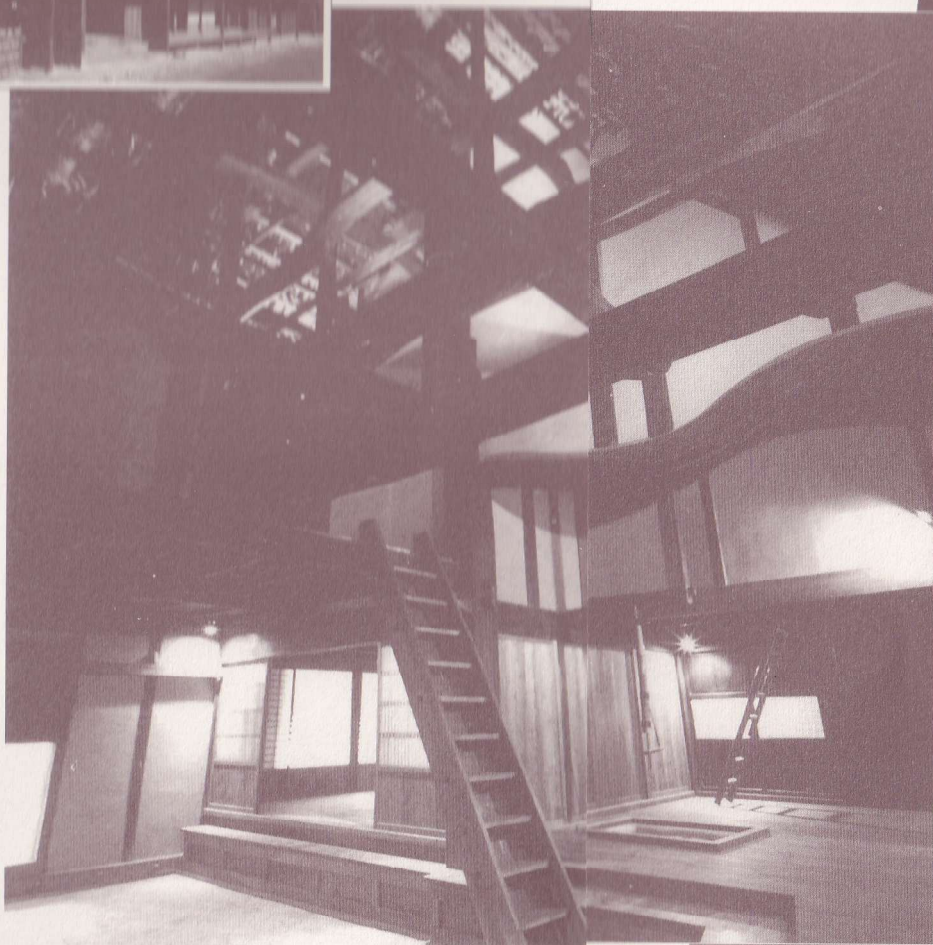
名主の屋敷

旧小岩井家住宅主屋及び長屋門は、鍛冶ヶ谷村の名主を務めた「小岩井家」から寄贈をうけ、移築復原された建物です。江戸時代末期に建てられたこの建物は、主屋に式台をつけた座敷が設けられるなど一般の農家に見られない格式ある造りを持ち、長屋門とあわせて、創建当時の姿に復原されています。平成十四年十一月には、主屋、長屋門（表門）ともに市指定有形文化財に指定されました。古民家ゾーン内には、復原された主屋、長屋門の他、各種体験教室などが開かれる工作棟等があります。江戸時代の名主の屋敷の雰囲気は今に残す主屋内は、見学いただけます。

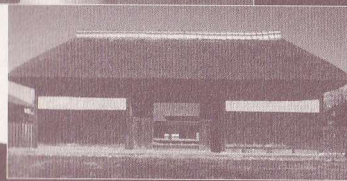


主屋

江戸時代末期 弘化四年（一八四七）創建
寄棟茅葺屋根、木造平屋建、部厨子二階建



土間から天井裏を仰ぎ見たところ。屋根裏に続く重層的な建物構造をここから見る事ができます。1階左手が畳敷きの広間、右手が板張りの囲炉裏付き茶の間です。大きく曲った梁（箴子梁＝しんしばり）の向う側、囲炉裏の上に煙出しがあります。茅葺き屋根を外から見ると煙突のように見える、それが煙出しです。（主屋の写真参照）

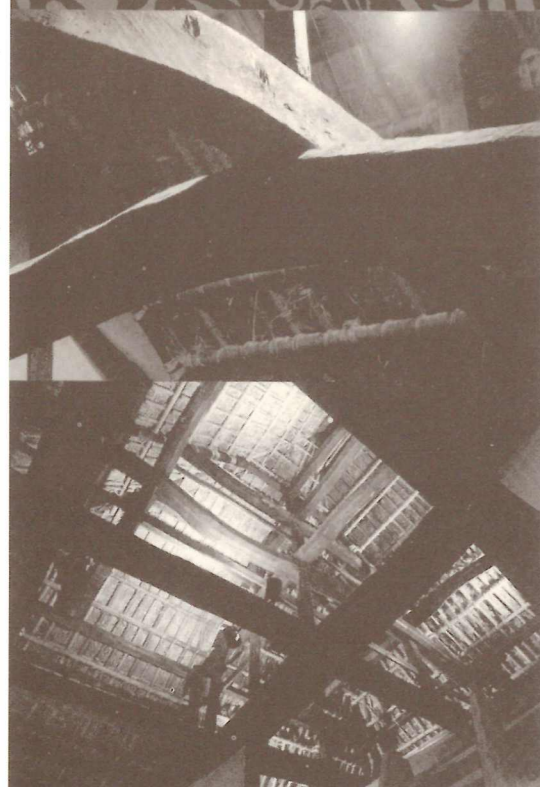


長屋門

江戸時代末期創建（推定）寄棟茅葺屋根、木造平屋建。中央通路を挟み、東側が板敷きの殺物入れ、西側が土間の納屋になっています。



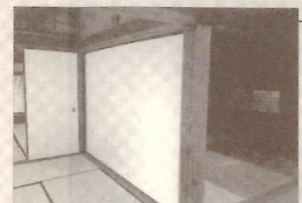
歴史の重みを支えた重厚な梁



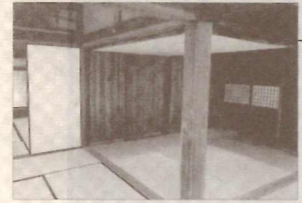
小屋組／屋根裏の梁組のことで、伝統的な道具の手斧(チョウナ)で断面が八角形になるように面取りされた何本もの梁が、小屋組を形成しています。竹と縄で組まれた茅葺屋根の下地も見えます。



式台／身分の高い人が使用する公式の出入口で、一般の農家には無いものでした。式台奥は、壁を朱色に塗った座敷を3室並べ、客間として使用していました。

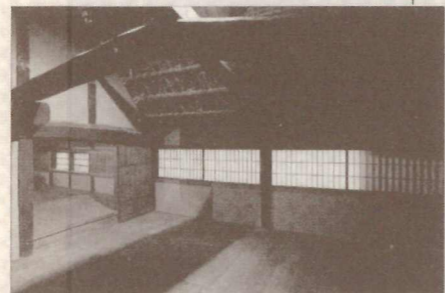


跳ね上げ戸
／壁一面が跳ね上げ式の板戸で、中座敷側は襖紙が貼られます。板戸を跳ね上げると、中座敷と広間が続き間になります。市内の民家では他に類例の見られないユニークな形式です。



下がった状態

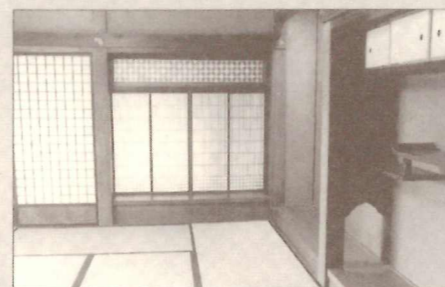
上がった状態



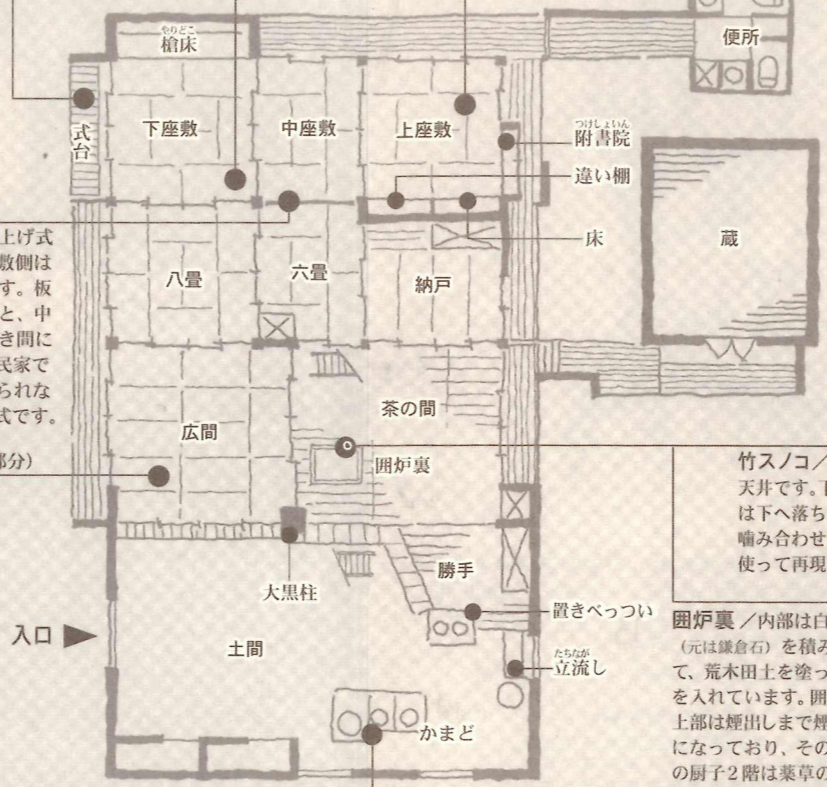
厨子2階／広間の2階部分にあたる、明り取り意のある屋根裏部屋です。一般的には物置場や使用人の寝室として使用されますが、当家は薬草の乾燥場として使用していたようです。



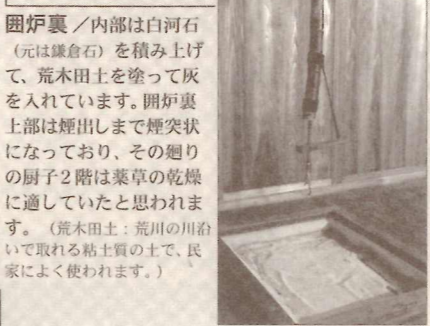
曲がり柱／柱が天井裏に入っ
てうねるように変形していま
す。変形部分には四方から梁
がささり、大工の腕の見せ場
でもありました。見学者が天
井裏を覗けるように工夫しま
した。



上座敷／床、附書院(つけし
よいん)が配された最も格式
の高い部屋で客間として使わ
れていました。移築前は床を
背に座ると富士山が眺められ
ました。



竹スノコ／囲炉裏の上に設けられた竹スノコ
天井です。下からの煙は上へ抜け、上からの煤
は下へ落ちないように半割りにした竹を交互に
組み合わせています。元々の爆竹(すずだけ)を
使って再現しました。

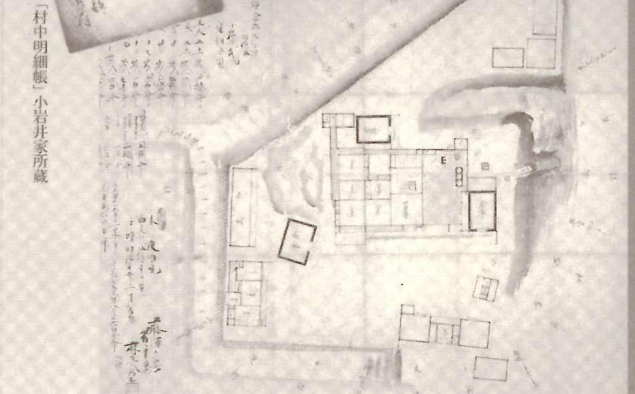


囲炉裏／内部は白河石
(元は鎌倉石)を積み上げ
て、荒木田土を塗って灰
を入れています。囲炉裏
上部は煙出しまで煙突状
になっており、その廻り
の厨子2階は薬草の乾燥
に適していたと思われま
す。(荒木田土：荒川の川沿
いで取れる粘土質の土で、民
家によく使われます。)

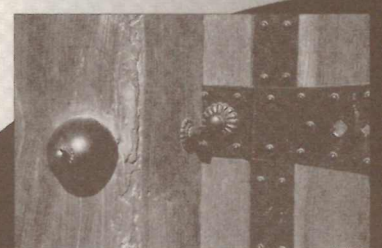


かまど／大釜、中釜、小釜の三連のかまどで、
「三つべっつい」ともいわれます。日干した
煉瓦状の土を積み上げ、荒木田土を塗ったも
のです。

【小岩井家】
小岩井家は、江戸時代後期から末期にかけて、徳川家
谷村の名主を務めた旧家です。余業として、薬屋を文化
年間から明治時代まで営み、安政年間には油屋を始め
るなど多角的な経営を行っていました。



「小岩井家相図」小岩井家所蔵



【長屋門】

扉には、釘隠しの饅頭
金物(丸い半球状のもの)
や装飾性の高い入八双
(いりはっそう)金物が
使われ、名主屋敷の風
格を表わしています。

